

ドファールの農業（２）

第２回：サララ平野の農業

サララ平野の農業はドファール州の州都でもあるサララ市周辺及びその東に位置するタッカ周辺を中心として行われている。画像でみるようにここでの農業は伝統的なフルーツ、野菜栽培地帯（海岸沿いに見られる模様の入り組んだ赤色）と最近始められた大規模な牧草栽培地帯（やや内陸部の単一赤色）に２分される。伝統的農業地帯では、オマーンでの生産のほとんどを占めているバナナ、ココヤシ、パパイヤなどのフルーツを中心にダイコン、ミントなどの葉物やトマト、キュウリなどの野菜、それに自家用の牧草が栽培されている。灌漑は水路を利用した水盤灌漑方式が取られている。



衛星画像 (False Color) :
サララ市周辺の農地の分布 (赤い場所が農地を示す)

灌漑水は地下5mの浅井戸からポンプで汲み上げられ、水路で各圃場まで導かれている。ここで収穫された生産物は、フルーツの多くがマスカットなどに出荷されている一方、その他の生産物の多くはドファール周辺で消費されている。これら既存農場の所有者はオマーン人であるが、労働はパキスタン人、インド人の手に任されている。

一方、最近進められている大規模な牧草栽培は乳牛用の飼料生産が目的で、国策会社形態で運営されている。水は農場周辺に深井戸を掘り、そこからパイプで導かれ、センターピボット、レインガン等で灌水が行われている。

しかし、このような大規模な牧草栽培農地の拡大に伴い、海水の貫入が問題視されてきている。特に、これらの農地が伝統的農地の分布と比較し、内陸部に位置するため、海岸地帯に分布する旧来の農地では水位の低下が起こり、それに起因する塩水の貫入の影響を受けやすい状況になっていると言われている。水資源省の調査でも1974年から1992年までの間に調査地域（サララ市を中心に東西約50km、南北約10km）内で、良質（0~2,000ppm）の地下水を得られる地域が42%から23%へ減少している。さらにこの傾向は現在多くの水を使用している新規開発農場周辺で著しい。



伝統的農業による圃場内の風景：

3層に分かれており、一番高い所にココヤシ、その下にバナナ、パパイヤ等が、地表近くでは野菜、牧草等が栽培されている。



生産物の直販をやっている果物屋